

## 1. 特に効果的であり改善に資した事例について

### B. 円滑な学位授与の促進

#### ③論文作成支援の充実

##### 《人社系》

#### ●南山大学国際地域文化研究科国際地域文化専攻

#### 「多文化社会対応企業人・教員養成プログラム」の事例

##### (具体的に何を実施したのか)

文化的・社会的共生のダイナミズムを理論的・かつ実証的に解明する能力獲得をもとに高水準で独創性に富む修士論文の作成を支援するため、ネイティブのGP嘱託講師による英語表現上の技術的サポートとともに、初年度およびその翌年度に実施した「アメリカ研修」や最終年度に実施した「在外研究調査」に対する助成を行った。「アメリカ研修」や「在外研究調査」においては、各自の修士論文の執筆に向けた準備作業の一環として、現地での資料収集、関係者へのインタビューなどの現地活動がなされた。また、本大学を主催校として開催された「名古屋アメリカ研究夏期セミナー」の一環である「国際大学院生セミナー」では、準備中の修士論文について英語による報告を求め、海外の院生からの批判を得ることにより、修士論文のレベルアップを目指した。

##### (実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

「在外研究調査」に対する助成にあたっては厳正なる選考を行った。また、旅程全般の設定、学会の選定・参加申請、訪問する海外研究者の人選・アポイントメント等のアレンジメントのすべてを院生に委ねて院生の自主性、主体性が最大限発揮されるよう配慮した。

##### (どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

「アメリカ研修」ならびに「在外研究調査」に対する助成の実施は、在外調査に伴う経済的負担を軽減することで、各院生が研究活動に一層専念できる環境・条件を整えるうえで大変有意義であった。とくに「在外研究調査」の助成対象の各院生は、現地での現地調査を通じて、系統だった資料収集や、関係者との意見交換・人脈作りを行うことができたことで修士論文の論点のさらなる深化が図られた。

## 1. 特に効果的であり改善に資した事例について

### D. 産業界、地域社会等多様な社会部門と連携した人材養成機能の強化

#### ①国内外におけるインターンシップ・フィールドワークの充実

##### 《人社系》

##### ●南山大学国際地域文化研究科国際地域文化専攻

##### 「多文化社会対応企業人・教員養成プログラム」の事例

##### (具体的に何を実施したのか)

文化的・多文化共生のダイナミズムとその展望に関して現実感覚を豊かにする目的のもとに、授業科目「国際地域文化プロジェクト研究」の一環として、本研究科の提携する官公庁の国際交流事業部門、NGO、NPO 等で行われているインターンシップの充実を図り、多文化共生の現場での様々な実地活動に従事する機会を可能な限り提供した。

##### (実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

初年度と最終年度において、受け入れ先機関・団体の各担当者をパネリストに迎えミニシンポジウムを開催し、そのミニシンポジウムの中で各受け入れ機関・団体のインターンシップに参加した院生の体験報告会を行った。そして、各院生はそれぞれ研究テーマをもってインターンシップに参加し、体験報告とその成果については、それぞれ『インターンシップ報告集第1号』(2009年3月)、『インターンシップ報告集第2号』として刊行された。

##### (どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

インターンシップに参加した院生は、多文化共生を目指す現場における様々な課題について多くを学ぶ機会を得るとともに、「国際地域文化プロジェクト研究」ミニシンポジウムにおいて、参加院生は、受講者によるインターンシップ活動の成果を共有したのみならず、パネリストによる適確なコメントとともに、自らの実地体験の成果を他の院生との間で共有できたことも、国際協力や多文化共生について理解を深める上で極めて有意義であった。